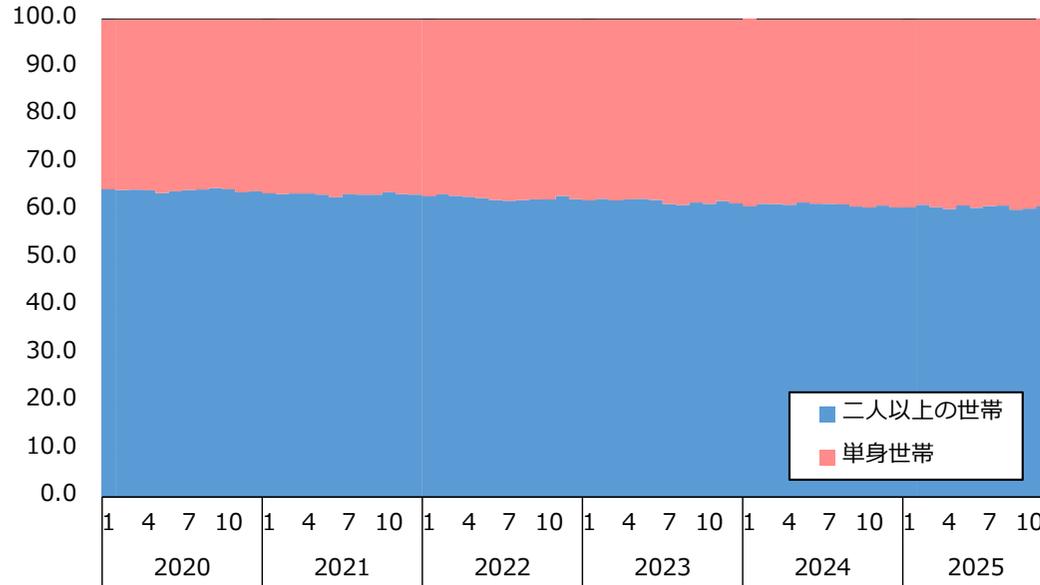


世帯構成の変化について

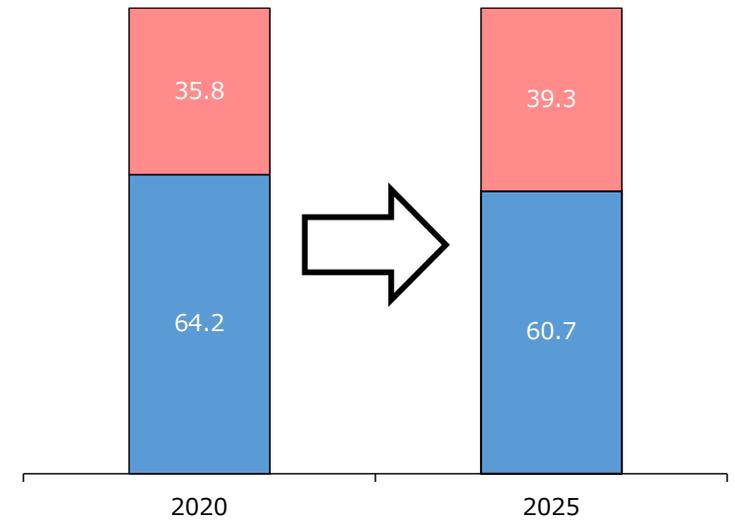
令和8年1月15日
総務省統計局消費統計課

近年の世帯・年齢構成比の推移

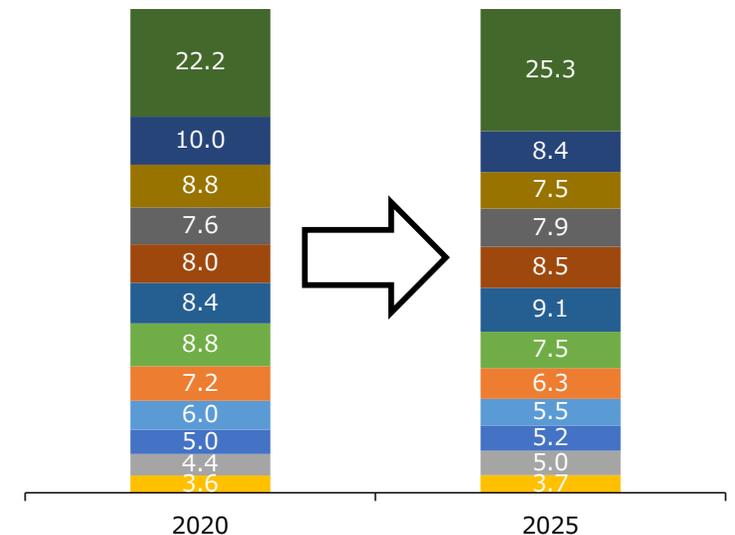
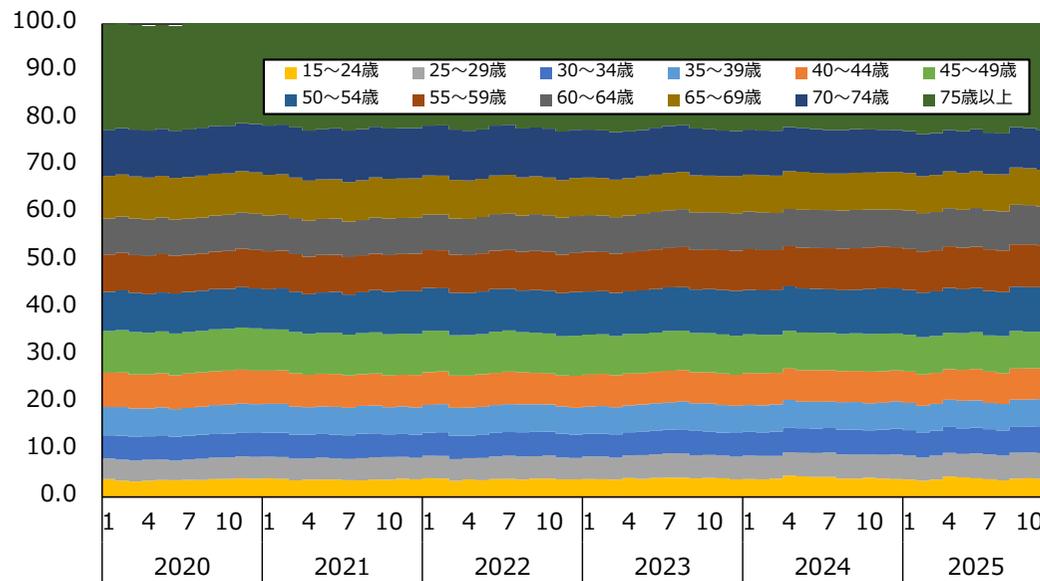
■世帯構成比率の推移



※「労働力調査」の結果を用いて作成
 ※ 2025年平均は、1～11月の結果を用いて作成



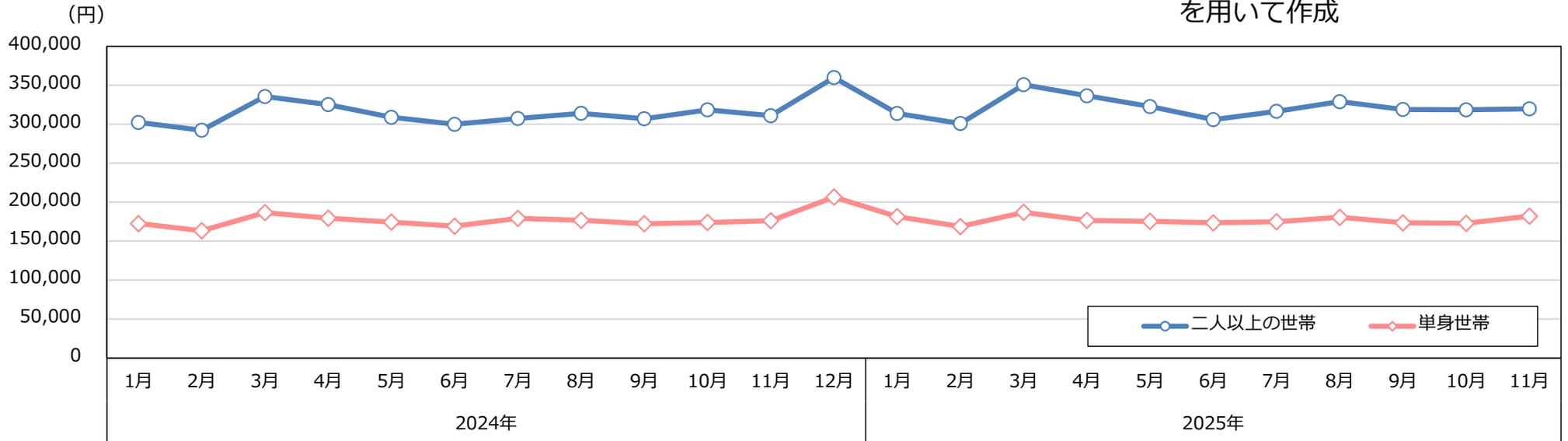
■世帯主の年齢構成比率の推移



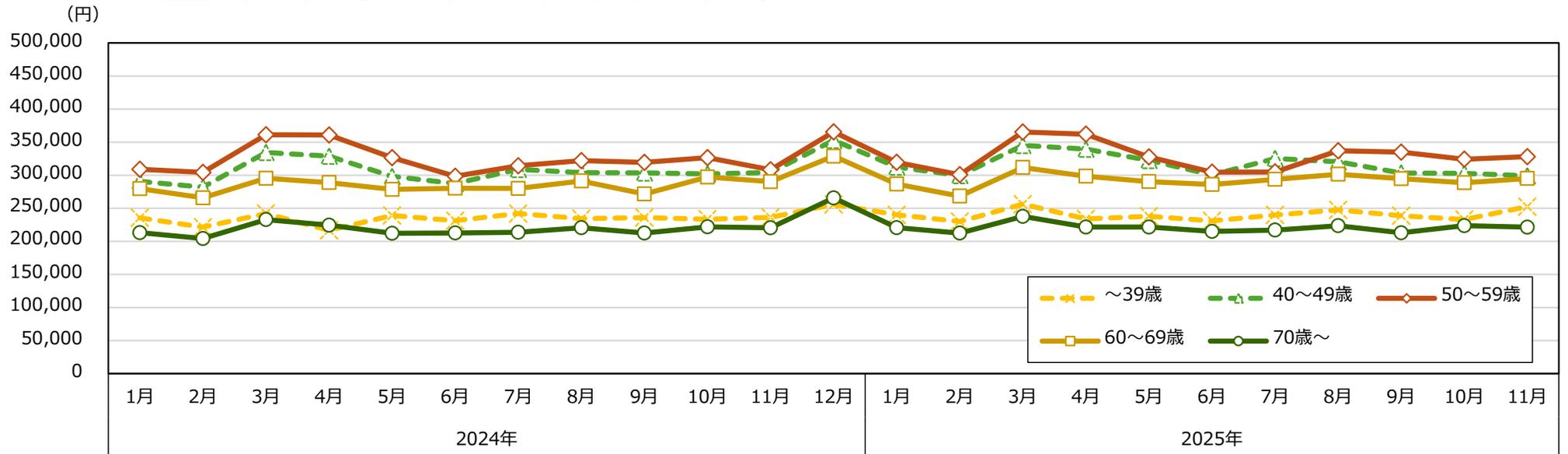
近年の消費支出の推移

■ 単身、二人以上世帯別の消費支出の推移

※消費動向指数 参考詳細表の合成金額を用いて作成



■ 世帯主年齢別の消費支出の推移



世帯構成の変化の影響に関して

- C T I ミクロでは、二人以上世帯と単身世帯を合成して総世帯の結果を作成
- (二人以上世帯よりも支出額が少ない) 単身世帯数が増加しているため、前年同月比について「二人以上世帯の結果、単身世帯の結果がともに増加だが、総世帯の結果は減少となる」場合あり

例：二人以上世帯+0.6%、単身世帯+0.2%、総世帯▲0.1% (2023年4月)

- 上記以外にも、二人以上世帯の結果、単身世帯の結果、総世帯の結果の各数値の関係について直感的な理解が難しくなる場合あり

例：二人以上世帯▲0.5%、単身世帯+1.1%、総世帯▲0.6% (2022年12月)

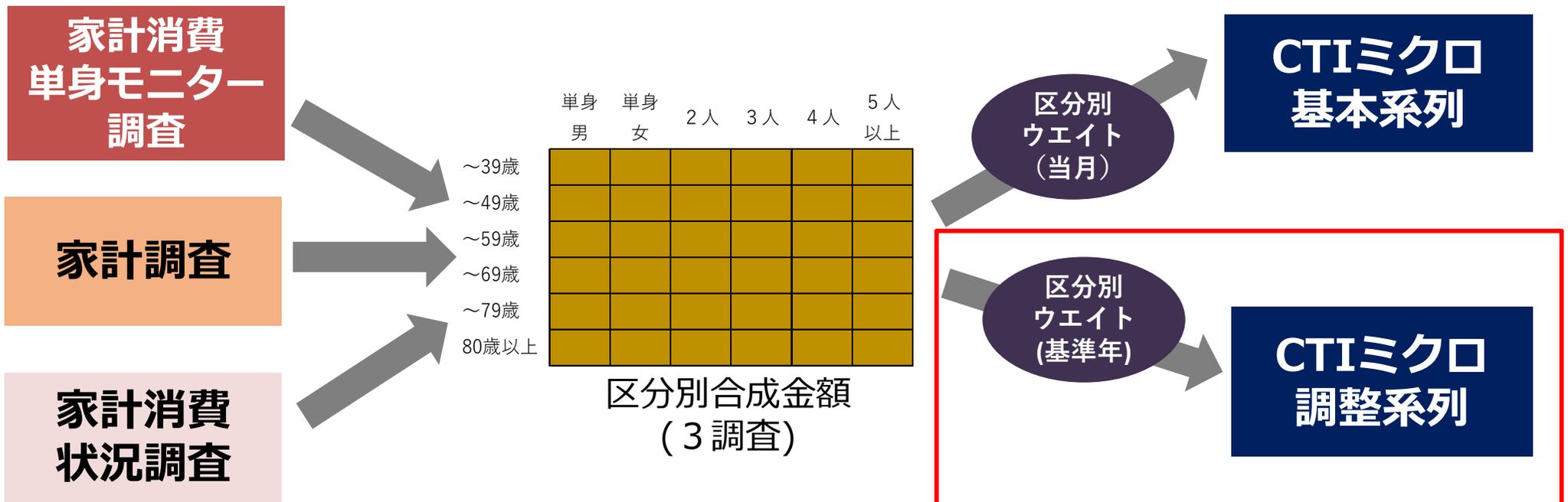


世帯の構成比等を基準年に固定した「分布調整値」であれば、世帯構成等の変化の影響を除くことができるため、上記のような場合は起こらない

分布調整値について

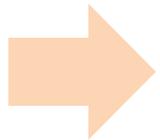
- 分布調整値（調整系列）とは、世帯・年齢構成比（単身に限っては男女構成比）を基準年で固定した指標
- 世帯・年齢構成の変化が消費支出の推移に与える影響を除去

【指標作成イメージ】



分布調整値に関する留意点

- 季節調整値による前月比について、基本の指数値と分布調整値の間に差あり。ただし、差について、上方・下方といった特定の傾向は生じていない
- 世帯人員・年齢の分布を基準年（西暦00年・05年）に固定した分布調整値については、5年毎の基準改定における分布更新の影響あり



世帯構成等の変化への対応方法、
分布の更新頻度、更新の影響等をどのように考えるか